

血液サラサラ・ドロドロ？

「血液サラサラ」とかドロドロとかいう表現をよく聞くが、小生、何のことを表現しているのか、全く理解できないのだ。かつて、血液センターが今のように充実していないとき、供血者を病院に呼んで採血していたことがある。今でいうところの成分輸血をするためである。何百人あるいは何千人採血したかわからないくらいであるが、採血しながら「この人の血液はサラサラやとかドロドロや」などと思ったり感じたりしたことなど一度もない。

これを言ってきた製薬会社の人に尋ねたら、「血液の粘っこさを表現している」という。アホか。

もし、コレステロールが高い低いとか血糖値が高い低いという意味で言っているのなら、「何もそんな表現を使わずに事実だけ（たとえば検査値）をいえばいい」。血液凝固系が亢進し血栓（血液が血管の中で固まってしまい、血塊ができること）ができやすい、とか、梗塞を起こしやすいのをドロドロといい、あるいは、そういう状態を改善するのを「血液サラサラ」と表現するなら、どうも勘違いしているのではないか。

ましてや、ブレスレットをつけただけで血液がサラサラになるとだまされたなら、それはだまされた方が悪い。しかし、なんやネ、相手の無知につけこんで、不安をあおり安物を高値で売りつけるなどと頭のいいヤツがおるなあ、が実感。

実際に、血液凝固系の亢進した状態で、血栓性血小板減少性紫斑病というのがある。これは、精神症状がでたり、あまり性質のよくない病気なのだが、こういうのを血液ドロドロと表現するのだろうか。逆に血液凝固因子が欠乏している人は、血液サラサラとは言わないだろう。

貧血で赤血球が少ないと血液はサラサラになるだろうけれど、こ

の場合は「サラサラ」ではなく「シャブシャブ」だろう。

そんな、「無関係なもの」を基準にするよりも直接に血液の粘っこさ（粘稠度）を測定すればすむ。たしかに異常に粘稠度が高くなる病気はある。これを血液ドロドロと表現するならまあそうかな、ちょっと違うねんけど。この病気の患者でも、何年経っても梗塞は起こらない。

もう、いい加減相手(患者のこと)は素人だからという意味で、ややこしい表現をするのはやめた方がいい。(すでに述べた善玉・悪玉など。) バリヤー論のところでも述べたが、大して高くもないバリヤーを超えるくらい簡単なことで、きちんと事実だけを説明すればいいではないか。相手が理解しようとしまいと、それはその人の人生観だから、好きにさせておけばいいのにとと思う。

どうでもいいことなのだが、物事を善悪とか正常異常など両極端に分類しようとする人が多くて閉口するのであるが、くりかえすがそんなに割り切って判断できることの方が少ないのではないか。ある TV にでていた女の子の実感。「好き」の反対語は何と意思ですか？ 「嫌い」ですか？・・・間違い。「好き」の反対語は「無関心」なのです。

すべてが善で、あるいはすべてが悪などという存在があるはずがない。ピロリ菌でさえ、現時点では悪いことしかでてきていないが、ひょっとすると、全く関係がないと思われていたところから**必要不可欠なものだ**などという解釈が突然でてくるかもしれないではないか。

で、冒頭に書いたように、血液サラサラ・ドロドロの意味がわからない、という結論になる。 2007.11.